

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月10日

上場会社名 株式会社 アイフリーク モバイル
 コード番号 3845 URL <http://www.i-freek.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷内 進
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理グループ長 (氏名) 紀伊 克彦
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 092-471-5211

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	471	△42.4	△9	—	△4	—	△6	—
27年3月期第3四半期	818	△22.3	△27	—	△24	—	△32	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 △9百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 △32百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
28年3月期第3四半期	△0.59	—
27年3月期第3四半期	△2.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
28年3月期第3四半期	563	75	13.0	6.24
27年3月期	720	82	11.1	6.84

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 73百万円 27年3月期 80百万円

(注) 開示につきましては、連結財務諸表の開示が会社の実態をより正確に表すことから、個別財務諸表ではなく連結財務諸表を開示しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円銭
通期	750	△27.8	10	△26.9	5	△68.5	2	0.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名) 株式会社アイフリーク モバイル

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	11,765,200 株	27年3月期	11,737,500 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	300 株	27年3月期	300 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	11,756,113 株	27年3月期3Q	11,232,298 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善及び政府・日銀による各種政策を背景に緩やかな回復基調にあるものの、米国の金融政策正常化に向けた動きのなか、中国を始めとする新興国経済の減速懸念から、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの関連するモバイルコンテンツ業界におきましては、携帯電話利用者のフィーチャーフォン（以下「FP」という。）からスマートフォン（以下「SP」という。）への端末変更がより一層進み、さらに、タブレット端末の利用者が増えた結果、SP及びタブレット端末（以下「スマートデバイス」という。）の利用者が増加傾向にあります。これらの要因により、インターネットサービス及びアプリケーションの利用、電子書籍の閲覧等、スマートデバイスによるコンテンツ利用シーンが拡大しております。

このような経営環境のもと、当社グループは引き続き、モバイルコンテンツ事業の持続的な成長と関連事業の育成を進めてまいりました。

コミュニケーションコンテンツ領域（『デココレ』、『photodeco+』等）におきましては、ユーザーの継続利用を促進するため、使いやすいユーザーインターフェースへの改善と追加機能の拡充、スタンプ画像の掲載等、引き続きスマートデバイスでのサービス強化を進めてまいりました。まず、『デココレ』におきましては、テレビアニメ25周年記念「映画ちびまる子ちゃん」との特別タイアップとして、限定スタンプ・待ち受け画像の配信、さらにもこの大人気キャラクター「コジコジ (COJI-COJI)」の名言スタンプ素材の限定配信に加えて、大規模リニューアルによるシェア拡大に取り組みました。次に、『photodeco+』におきましては、大ヒット映画「パディントン」の日本公開を記念した特別企画として、スタンプやフレーム、テンプレートで写真を簡単に可愛く加工できるデコ素材の配信を行い、サービス強化に取り組みました。

ファミリーコンテンツサービス領域（『森のえほん館』等）におきましては、絵本を通してメープルシロップの魅力伝える取組みといたしまして、株式会社白泉社が発行する子育て情報誌「kodomo (コドモエ)」と制作しましたタイアップ絵本「かえでのもりの おくりもの」の配信を行い、更なる認知、普及に向けた取組みを実施いたしました。

周辺事業の育成におきましては、世界的なメッセージングアプリFacebook「Messenger」向けにスタンプを送信できるサービスとして、『stapa!』をリリースいたしました。今後は、Facebook「Messenger」にさらに緊密に統合される様、Facebook社に申請する予定です。また、オリジナル作品投稿コミュニティ『Pictbox』におきましては、ステッカー製作専門サイト「貼れる屋」を運営する越後紙紙株式会社と共同で、ノートパソコンを彩るイラストコンテストを開催する等の取組みを行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は471,265千円（前年同期比42.4%減）、営業損失は9,608千円（前年同期は27,305千円の営業損失）、経常損失は4,680千円（前年同期は24,356千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は6,977千円（前年同期は32,888千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間から、当社グループは単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）製品名及びサービス名は商標又は登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

流動資産は、前連結会計年度末に比べて136,919千円（22.3%）減少し、476,288千円となりました。これは主として、現金及び預金が79,800千円、売掛金が28,832千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて17,822千円（17.3%）減少し、85,256千円となりました。これは主として、有形固定資産が5,961千円、無形固定資産が3,204千円増加したものの、投資その他の資産が26,988千円減少したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて1,457千円（37.5%）減少し、2,429千円となりました。

以上の結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて156,199千円（21.7%）減少し、563,974千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて134,642千円（32.3%）減少し、282,212千円となりました。これは主として、短期借入金120,000千円、1年内返済予定の長期借入金が18,856千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて14,326千円（6.5%）減少し、206,465千円となりました。これは主として、長期借入金が10,988千円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて148,969千円（23.4%）減少し、488,678千円となりました。

純資産は、主に親会社株主に帰属する四半期純損失6,977千円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて7,229千円(8.8%)減少し、75,295千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年11月6日に公表しております業績予想数値に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間におきまして、当社の連結子会社でありました株式会社アイフリーク モバイルは、当社を吸収合併存続会社、株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併消滅会社とする吸収合併により消滅しておりますが、同社が行ってございました事業は当社が継承しているため、当社グループとして営んでおります事業の内容に変更はありません。

なお、当社は、平成27年7月1日付けで株式会社アイフリーク モバイルに商号を変更いたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、スマートデバイスのサービス強化及び企業向け電子絵本商品のメニュー強化、不採算事業からの撤退や徹底した固定費の削減施策を行い、グループ内の事業部門の選択と集中をより強く推進し、経営資源をモバイルコンテンツ事業へ集約する体制の整備と財務基盤の強化を図りました。

これらの施策が功を奏し、前連結会計年度において、営業利益及び経常利益を計上しております。しかしながら、営業キャッシュ・フローは継続してマイナスであり、収益力が安定したと判断するのは時期尚早であることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると判断しております。

この改善策といたしまして、当連結会計年度におきましては、平成27年7月1日に当社グループの売上高を構成するモバイルコンテンツ事業を営んでおりました株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併し、従来の「純粋持株会社体制」から「事業会社体制」に移行することにより、昨今の経済情勢の変化に対応するとともに、より一層のお客様視点に立った経営及び経営の一層の効率化を進めております。また、モバイルコンテンツ事業の中核であります『デココレ』『photodeco+』等のコミュニケーションコンテンツ領域及び『森のえほん館』等のファミリーコンテンツサービス領域の一層のサービス強化により、営業利益の確保及び営業キャッシュ・フローの更なる改善を見込んでおります。

事業資金面につきましても、引き続き取引金融機関と良好な関係にあり、当面の事業資金の確保はなされていることから、少なくとも今後1年間の資金繰りに重大な支障をきたすような状況にはありません。

以上のことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	421,774	341,974
売掛金	152,244	123,412
有価証券	14	14
その他	39,704	11,335
貸倒引当金	△531	△447
流動資産合計	613,207	476,288
固定資産		
有形固定資産	20,698	26,660
無形固定資産	17,992	21,197
投資その他の資産	64,386	37,398
固定資産合計	103,078	85,256
繰延資産	3,887	2,429
資産合計	720,173	563,974
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,252	8,615
短期借入金	300,000	180,000
1年内返済予定の長期借入金	39,792	20,936
未払法人税等	—	3,247
その他	68,811	69,413
流動負債合計	416,855	282,212
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	10,988	—
資産除去債務	5,199	5,235
その他	4,604	1,230
固定負債合計	220,792	206,465
負債合計	637,647	488,678
純資産の部		
株主資本		
資本金	652,682	654,171
資本剰余金	652,687	654,177
利益剰余金	△1,221,648	△1,228,625
自己株式	△34	△34
株主資本合計	83,686	79,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,391	△6,283
その他の包括利益累計額合計	△3,391	△6,283
新株予約権	2,230	1,891
純資産合計	82,525	75,295
負債純資産合計	720,173	563,974

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	818,509	471,265
売上原価	425,886	170,968
売上総利益	392,623	300,296
販売費及び一般管理費	419,928	309,905
営業損失(△)	△27,305	△9,608
営業外収益		
受取利息	31	28
受取配当金	3,300	245
貸倒引当金戻入額	6,137	3,218
その他	2,816	6,048
営業外収益合計	12,285	9,541
営業外費用		
支払利息	3,326	2,864
社債発行費償却	1,457	1,457
新株予約権発行費	2,000	—
その他	2,552	290
営業外費用合計	9,336	4,613
経常損失(△)	△24,356	△4,680
特別利益		
新株予約権戻入益	—	220
事業譲渡益	59,020	—
特別利益合計	59,020	220
特別損失		
特別退職金	1,038	—
貸倒引当金繰入額	59,484	—
特別損失合計	60,523	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△25,859	△4,459
法人税等	7,028	2,518
四半期純損失(△)	△32,888	△6,977
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△32,888	△6,977

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純損失(△)	△32,888	△6,977
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△60	△2,892
その他の包括利益合計	△60	△2,892
四半期包括利益	△32,948	△9,870
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△32,948	△9,870

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	632,613	185,896	818,509	—	818,509
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	632,613	185,896	818,509	—	818,509
セグメント利益又は 損失(△)	142,229	△10,480	131,749	△159,054	△27,305

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

当社グループは「モバイルコンテンツ事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは、従来「モバイルコンテンツ事業」、「Eコマース事業」の2事業を報告セグメントとしておりましたが、前連結会計年度において、「Eコマース事業」を営んでおりました株式会社アイフリークプロダクツセールスの保有株式の全てを第三者に譲渡し、同事業から撤退しております。

これにより、「モバイルコンテンツ事業」の単一セグメントとなることから、当第3四半期連結累計期間のセグメント情報の記載を省略しております。